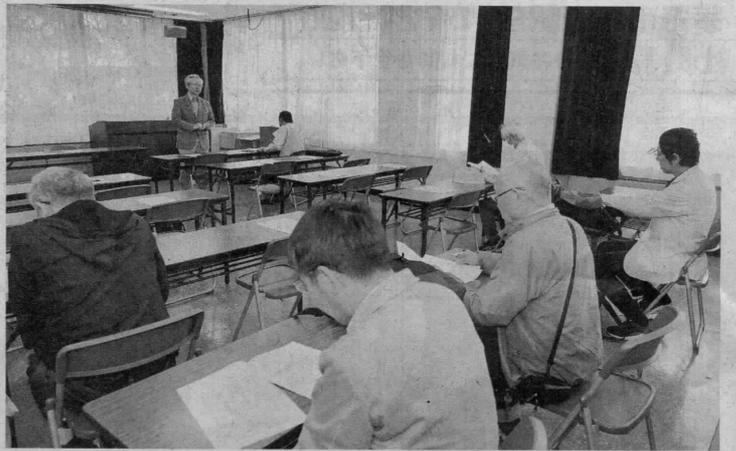


6月に縄文シンポ開催 諏訪考古学研究会が総会

事業計画と予算を決めて
研究意欲を新たにした総会



を高めることが諏訪考古学の質を高め、発信につながる。研究の伝統を継ぐため、研究者が交流し、多くの情報を共有し合う場であり続けたい」と述べた。

シンポジウムは6月21日に縄文文化発信会議(山梨県)、甲信縄文文化活性化協議会などと連携して茅野市民館(茅野市)で開く。諏訪地区の最新の遺跡発掘調査、研究の成果を報告する発表会は8月に予定する。

同日は総会の後、縄文文化発信会議の長澤宏昌代表理事「山梨県笛吹市」を迎えて講話研修も開き、縄文土器に対する知識を深めた。

(日比野真由美)

諏訪考古学研究会(鵜飼幸雄会長)は11日、総会を諏訪市湖岸通り5の諏訪市公民館で開いた。今年度の事業計画では県内外の関係団体と協力しての縄文シンポジウムや、遺跡発掘の研究発表会を開くことなどを決め、研究意欲を新たにした。

会は諏訪地方内外の考古学研究者や博物館、考古館の学芸員らが研究成果を発表し、情報を交わす場として1988年に設立した。コロナ禍を経て2022年、組織を一新

して活動を再開、会員数はこの2年間で倍増の約40人となった。昨年度は、「諏訪市史第一巻」の刊行から100年を記念して研究誌を発刊、記念発表会も開くなど精力的に取り組んだ。

席上、鵜飼会長はあいさつでこの実績を振り返り、「諏訪の歴史研究の底力を地域の皆さんに知っていただく大事業を成し遂げられた」と感謝。「日々の研究、研さんの成果が立派な冊子の完成に結び付いた。日々精進して研究